觀音經和讀鈔

全

観音經和讃序

夫物情遠邪見八万年の中間
さとれる中間年月稚蓮の如くなる
仏乃いとなる花開中に最為第一と中まを
以普門品八大人覚の骨髄を集て咽喉唇舌
おくる為周孔穢土八天人ともて是正お
いうと宗旨の文とさとりあるを天下を治め
世代をそなり慈悲をもつて花の二分とうけ
てあるを死の他人とあるを後よ光と敷衍とい
ひさ九二金ひつりて仏の利益を冥衆

かあげうるものぞなきよいと高いと低いと或は
めしひとなる者もこれと命じてまれることひ
らき蹇なる者も其色を施ととのへてすなわ
ちありたちひ極機枷鎖のつみのあるもす
る死罪流罪一切大災罪難より無人本大
慌なじて悉く波濤すでよりあぐるなり
むえ金く銀蓄ゆ財物ゆ波濤夫ちるゆ金と
るるもまたもとちる武器服被所重物美麗
景色乃金文作でを択あり、代じあるを
ものとあらつまはのなるもの

観音経和讃卷上目録

第一　ぬいぐうのうち
第二　ちんせんれん華
第三　ぼうりの夏
第四　ふりんきつ　付り忍乃事
第五　ぬいこ千手乃事
第六　ちんぬんぐ尊ちんとみの毒蛇毒龍いゆるの事
第七　称ちんぎ尊ちんとひとあうと勝者乃事
第八　ふじの下
第九　むぐんいきつ
第十　尊ちんぬんうちんの事
第十一　かちけの夏
第十二　いんちんとひとまの下

十三 ものとりてやれる
十四 ふんあんの物語く想答の事
十五 ぜんあんしの事
十六 物語偽の事
十七 一しんさうみのやうの事
十八 火あんの事
十九 伝解 六あんとのくるく夏
二十 ちうさきふあんとのくるく夏
二十一 ふんあんにあくする六あんの事
二十二 あんあんの事
二十三 ちうちうすのあんとのくる
二十四 尼図すいあんとのくる夏
二十五 ふんぎにあくする三あんの事
二十六 風あんの事

十七 七賢の事
付り 張の事
付り しやこの夏
付り さんこれの事
十八 さんしあ賢の夏
十九 ふうあんどの事
二十 ふんぎにあくする事
二十一 刀枝のあんとねの夏
二十二 ふんあんとねんしそあ枕あくる夏
二十三 かうこうさくこぎいとのくる
二十四 けいがのさんぎんの事
二十五 りひさりげさよ刀枝のあんとのくる
二十六 ふんけよあくする刀枝のあんの事
二十七 鬼あんの事
付り 金の事
付り あり夏
付り あのあの事
付り こうくの事

第八　屋しやらをもつてあり
第九　ふりかけいちやうしやれ夏
第十　ふんげよやくするさあんの事
第一　ちうのいりさあんれす
第二　いこくりとけそまけうる夏
第三　一ぞあうあしやりあうんせうつこあさす
第四　ふんげよやくするちうういうされあんの事
第五　あんぞくれあんの下
第六　あもとへんどうしんあて候す
第七　ふんあんかつしれあうりは五の事
第八　ふんげよやくするあんぞくれあんの事
第九　七あんの音とすふひのあすとかもるの下

上音くし同様候

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ふりかけいちやうしやれ　ふんげ　あんぞくれあんの下

ふりかけいちやうしやれ　ふんげ　あんぞくれあんの下　▲ふんげ　あんぞくれあんの下　ふんげ　あんぞくれあんの下　ふんげ　あんぞくれあんの下　

まるあとをとそきこしのぶ殿へ
ありがたくとそきこしそいつへそれみるみ
ものいんとんしんもるんにみがわ
あわをとうぶたくへとりもあ
ちらべーあやさそたりそそあへあとりゆく
ーーまあやとしべへそのおとをやまあやあそ
くりまとんああひーはれむんそのーく
ちんあんをあはとうとりとりとはやさそり
ああちひははまるこをりてんまひさひぶし
まのあへりまのとりとはみりとちんいちんやば
がりりはあ相はは通られそ根ちあうああ
へへりまれこてそくみてんのんもちあ今
あそりさりあまりまん▲りりりんん
ぶりりむしりはぶりりひとりあおりく一さりあ
りりとりりとりりり

いくらよりあめ象遠王と云新王おそうしまに
まものこゝろ物ゆゑ
みぐそをとりくこゝろ
つまを伊賀勅がうりと云人きうりひうとのうひそ
かけうこゝろうれうりんかりんと一かんわたりもんなよ
まもりめをうくあ彩うあ花まちにさこのもも
とうりんかるまるあ花がくらくせんとぶ
しそおれくあんうんりんりんとまりえんまひ
まるとうざようそうたのかりつよあそうひ
あかれうよあんをとうあのまれもくくとうくこ
あくびうとくくはうあのして天下あんあんを
人ひりんと酉遠の王孫
むりし人唐よ波列とあふまりし二人の使あり二人
いうれうり移うんこうとあんじそしむ又一人今

りんとあんじそうりは二人くに合かうり
こゝろあんまのちうよりもむくしよあんまもう
涙のりうざどりうにあ海のてんがのとうり移を
んぐこうとまくこゝろまるそうとあうぜらうこ又今の
ううざとうあるとうよ七そうれ天がひとうりあんれ
とまこゝあるそうとらのりあそのはあう台人
人くこゝのおて大まよひそこれうんぐありの学
ふんあしてた弟しあうんりんなぐれ一りんこい
うんやまくこぐこゝりまれそうるあ移うん強とうる
あるそうりいくいぐこうすぐれうりんりんとうの
こうるそうりいくいぐこうりあるあるもうしよあんぞある
んりんとうくこゝあるあ弟こをへ弟うもすぐれうる
今のうりうざよあこうりうじそあくもらのりまりあ
り大まこうくこゝありうりまうく移うん強ふ大弟れ

[illegible]

一切[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三 如と同じ

そうじて人は如来のようにまことのこころをもつべきなり
ちからずしてこころをもつべきなり
こころをもつべきなり
かしこくこころをもつべきなり
あるいは人びとのこころをもつべきなり
あるいは人びとのこころをもつべきなり
あるいは人びとのこころをもつべきなり
あるいは人びとのこころをもつべきなり

十四 仏告無尽意菩薩

佛告無盡意菩薩善男子若有無量百千萬億衆生

▲ぶつにむじんいのぼさつにぜんなんしにもしむりょうひゃくせんまんおくしゅじょう

こころをもつべきなり
こころをもつべきなり
こころをもつべきなり
こころをもつべきなり
こころをもつべきなり

十五 受諸苦悩

受諸苦惱

▲じゅしょくのうなう

十六 聞観世音菩薩

聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆得解脫

▲一心称名観世音菩薩即時観其音聲皆得解脫

十七 一心称名

かなうこころをもつべきなり
かなうこころをもつべきなり
かなうこころをもつべきなり
かなうこころをもつべきなり
かなうこころをもつべきなり

若有持是観世音菩薩名者設入大火火不能燒由是菩薩威神力故

▲設入大火火不能燒とは。いかなる大火にいりても。火にやけぬるなり。

火にやけぬるなり。

ぼんといふこゝろなり
又法智と云人ある時鹿野とゆくまゝ
ゆくうちのもとにて
ま[illegible]んと合ぜ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

若有百千萬億衆生爲求金銀瑠璃硨磲碼
碯珊瑚琥珀真珠等寶入於大海假使黑風
吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至一
人稱觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫
羅刹之難以是因緣名觀世音

付り 九の巻

付り 八の巻

付り 七の巻

付り 六の巻

付り 五の巻

付り 四の巻

付り 三の巻

付り 二の巻

ぬつるのちこ金こめろこ。○狐は燒たゝ中ゝ[illegible]
ゐいゐ[illegible]ろこの[illegible]成と燈と云。○獺獺はしゝめこ
せんまりあるいゐ[illegible]。○陳[illegible]は天ぢくゝ[illegible]
ゝものいろあとくゝ[illegible]。○狐はそのいゐわとく
あろくゝ[illegible]ゐ[illegible]馬ゝ駆ゝ[illegible]ゐ[illegible]へゝ[illegible]狐と
云冊[illegible]野ゝ鬼あり血化ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ。○珊瑚はゝろゝ大参の面面七百里ゝ[illegible]ゝ
あゝゝこゝ[illegible]云ゝ海底ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼所執刀杖尋段段壞而得解脫　びりんは刀杖のあんとのこと

[illegible]

▲刀杖段段壞とは[illegible]

[illegible]

大元年中[illegible]

[illegible]

中は高倉殿と云人こうれいをもうけたりけるを
さきのゝ[illegible]なりけるを[illegible]時分[illegible]と称しけ
るを[illegible]なりけるを[illegible]
りあるのちひとつ[illegible]
とゝ云[illegible]と云[illegible]
[illegible]
[illegible]

若三千大千國土滿中夜叉羅刹欲來惱人
聞其稱觀世音菩薩名者是諸惡鬼尚不能
以惡眼視之況復加害

尊情悪ハ人の情なり
中ほどにもれぬもまれ
へものゝ[illegible]
うぐるぜんぐとして
[illegible]
あまりのく
[illegible]
[illegible]
[illegible]
いとんやこ[illegible]
ひり天ちくやとこ
[illegible]
[illegible]

[illegible]
月蓋
[illegible]
[illegible]
[illegible]

設復有人若有罪若無罪枷械拘鎖繫其
身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即得解脫
[illegible]
[illegible]
[illegible]

若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸
商人齎持重寶經過險路其中一人作是唱
言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀
世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生

汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即
得解脫　はんにんとうしんぞくはんとうしんぞくはんとうしんぞくは

ありて併とうこうこと云こうやうりこれ愛ゆ
えにおりひぢをんかうへ接ことこれをつつ
ちうんおんよおりく此ますありうこん勝りう
みたうこれ此ぬこれとれちゆのおりしまを合おる
らゆぢくじめするおりかうこん家族とおつされ
ちうさちんゆ祇とうひてかんつしんをつけしして
ちういをとるうしがぢのじとおつけいうんおんを
あんちりこれとめんぢのゆちぢれいうんおんと
しんこうこと釈解の付いおんぢくかちうんゆよ
ありけんゆのおんとうくうこうおんして元
おんとおんしこそまつるいとりもかんちう
おりれ典ちもうそうこうこうるゆゆくへおりう
ともおりくべともわりおぢたりもうへうれとい
をゆうちうるゆとへ人をこうこうとりけいをと

をおへへ神ゆ観ゆとへふよ奥ーこうるおの
ゆとへへおりへ天おんゆをいりに
こうをんのうちちちおうう観ゆてもしやくやうう
ちれうちこうんこくくゆとへ人おりえをたちうう
おんをゆしてうそちうこうるゆめとへへこうう
とうちうどんすうこうおうちうゆしとるうと

無盡意観世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍
如是　はるんは七観巍巍とうこうるかへうと
くちうしゆ
▲巍　しこうゆうんれこうしこいふうもと
おるへ入いりくゆ巍くこうゆ観ぢうりう
観ぢうこうこうこ

観音經和讃抄卷中目錄

第一　之ぜくの下
第二　めんらくの事
第三　ちんいの事
第四　ぐちの夏
第五　ぎんし如子二歌あり
第六　ぎんるんこうの者あるの事
第七　ぎゃくとうとあるやと屈あるかの
第八　ちんぐの利屈くむるの所作の下
第九　ちんぎんぐく射映の下
第十　冥の利屈くと結すると下
第十一　ちんぎんしゃくのへあり
第十二　三十三身の下

十二　郷さんのうぶのさんの事
十四　ものくしぶのさんの事
十五　ちゃうりんさんの事
十六　ぜんさうしんの事
十七　あいしゅくしんのう
十八　じざいてんさんの事
十九　大じざいてんしんさのう
二十　てんだいゆうぐんしんの事
二十一　びしゃもんしんのう
二十二　小まうしんの事
付り　ちゃうとくおうさの事
二十三　ちゃうじゃしんのう
二十四　こんごうさんの事
二十五　さんたんしんの事

十六　だいこくさんのう
十七　ものくしの事
十八　びくうの事
十九　うぐ弁さ、さの事
二十　うぐ弁しのう
二十一　婦女さの事
二十二　童男ごうさのよの事
二十三　天乃事
二十四　ぎょうれるの事
二十五　ぎょしゃの事
二十六　ちんなのりの事
二十七　あしのらのの事
二十八　ひろ所の事
二十九　さんなのうの事

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八

中表之自涙沈

若有衆生多於婬欲常念恭敬觀世音菩薩
便得離欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩
便得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩
便得離癡無盡意觀世音菩薩有如是等大
威神力多所饒益是故衆生常應心念

▲婬欲

ばりんれてゑのいこ毒とをるとく欲をすり
くいとをれらりてくとみをあるくこはかんをの
いろよりもりりんをいはるくこれとんぢをくしてさ
ぢよりいれんとかうしてをめぐれさりふれとを

もとゝいんらくとゝいんしらくハ淫ごひのうこんげるり
楊梅瘡ようばいそういらくぜんだちのもりとゝいぐもよ
くとゝうんぜごれをさぐもまりこゆ魔毛よりのとゝや
さるのかるりるゆもんざひ大しいまうこにもうべーりん
らくいうもんゆのうんげんるりとのさまゝりこれゝ
れいんらくとゝもうんゆんと移んじこそまりゝばずま
ゑりれゝるりるゝぐもゆるり ▲瞙ゑとゝゝとゝゝゝ
いうるゝとゝるりゝ大集澄よいらく一移んれ瞙をゆこ
さバーさゝの魔毘たりりをうゝゝこゝゆゝるり。
ゆゑぐりんの瑞よいゝくくゝとうすむるぐくいちん
いるすぐゝうゝゆゝしゝゝゝゝんいぐうもうゝゆま
ゝつゝゆりゝゝもうんゆんゆんを移んじゆゝまつゝば
おゝりんよれうゝゆんゆくゝゆるゝゝゝるゝゝ ▲嶐嶐
ゝいぐちれ二字とゆりうんゆりくゝるゝゝゝゝむ。ゝゝ

嶐乃一字とたくゝゝゝゝ

又二乗あるべの下

若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩

便生福德智慧之男設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬

ぞるとものあぐらとすしれのへりうものとうん
なんのちうとうそうそぐられこう後とのぞくへる
ありつるよりかこ後わのぐちんをこうれぐちんさと
大これるぐちとのいう後清れぐうとこうこ後
よみるしてちぐくもあしぐくらくもあしちぐく
いひあいんぐべれぐうとありてだ素れ弱来
よいんぐべれぐうとあしあっと大さにひこう
とるとのふんたたりたりまりんぐべありとしいん
こんだしやうこくこんれこうんぎんん▲常会恭敬
というも常会恭敬いうも常会不軽菩薩を
称んぐこそまつこいうんぐんちれこぐくとこと
あるよこの後わるあると

▲後生福德智慧之男設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬上

ひこんれこう後ハ
人のあるひあい

何こつぐれるとれぐのふりあるこうへう
女人のまぐれとこれとりとめんこと後ふん
▲後生福德智慧之男設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬上
光りよこの乃ちのあり一ちの口れこぐとりて
れ向洲す二ちの脇つちにひさまぐさそれす
ふそりこの部とれつけてこらのこのとりあり
ちうれこるちんちうれんるれらいこのりこうすう
ふすりこりこりりりりれりれというとれ
くるこ墨するるこ▲後生福德智慧之男
こくれこいなこくこうひあくこうぐうちふれいれ

[illegible]

▲宿植滋牛[illegible]人業報[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうしめかうんぞくすることをきゝてかのこいんよ
くとともにしるみてこれをいんとなのれとうんかんハ
人のわりうひよりもるをうひそをもごんとまりをもにも
めるのみかりうれをいんくとをうれとをうへかへ
しもまるをうをもりうしむりうめかくかをのねりひう
をうをうりをもんをうめのりんをうをうをうをしめ
ひうりをもしいんりをみりうりうれをうをうれをめ
どうりよへしいりうしまりんをとれりをりのをと
ねりひまりんぞくすれをそれりうりうんかんを
ひうりよりをりうまりんりんをりをひくへりよりんりれり
えんをうりをそりひくへりよりんりをりれりうれ
りを女へいりをりくをりをうをりをりをりをりをれ
りをりをりのりれりのをそれりをりりをりりをりし
てをりひくりりをりをりをりをりをりをりをりをりむ

おかくあれをもりうを年りりをりをりをりをりをり
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを女
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを
をりりをりりをりりをりりをりりをりりをりりをりを

無盡意觀世音菩薩有如是力若有衆生恭
敬禮拜觀世音菩薩福不唐捐是故衆生皆
應受持觀世音菩薩名号

▲福不唐捐とは空しからずして必ず福を得

無盡意若有人受持六十二億恒河沙菩薩

名字復盡形供養飲食衣服卧具醫藥於汝
意云何是善男子善女人功德多不無盡意
言甚多世尊佛言若復有人受持觀世音菩
薩名号乃至一時禮拜供養是二人福正等
無異於百千萬億劫不可窮盡

ひとのこゝろ
ハ云なんくど
くれ射映ありち千二億ぐがうぐしやれかうりれかう
ぐうとうけうちうちうなんじきちうぶくおうを一ぢのうろう
とうとくみあ一ぢうきのうちうなんのうりおりうとうきへ
こゝうらいうこゝうしそまうるうくくとひゝうし

あ勝劣ありしとうとうり ▲千二億のが
うりとうしめくしんぢうれてくをひうしんびしや
ぢせうりいすそしめどうりとうくしうあ
うちう千二のくうをえあしそうさあんうり
ゝ一ぢうしんくこぜ千ちう一さんりうりうまうい
しそもうんなん一りうれてくゝ勝劣ありうんこう
無盡意受持觀世音菩薩名号得如是無量
無邊福德之利

ひゝへしなんこぐおのむとびうあ
ちりえうそう冥のうもあくくく
をこうんなんのぢうきにめむまへえうくうりあうゝう
おうれうもこうゝ為ようんどうこうりりりうをめこ
なへゝなうようしゝそうられいしなんこぐくと
ううくゆへいよ冥乃うあくうりまうさうりうくの

くとめたまふの報ひなり

無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何遊此娑婆世界云何而為衆生説法方便之力其事云何

▲云何娑婆世界といふ娑婆とは忍土といへり

ものをしのぶ人ありけれども忍びてしのぶ人なしとこそいへり

むさぼりとひのもの二毒四毒

とゝまりしもどもなりけるとそのゆへ

ひのもの▲物ゆへ方ものゝ云ものしとゝ

んいはりけれどもとゝめてしのぶとゝもしく

りとゝまる

佛告無盡意菩薩善男子若有國土衆生

ひりんかりかりうこんこうこんのこうこんのこうこんの

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而爲
說法　▲辟支佛とは天竺の人にて十二因緣を觀
ずして獨覺したる者なり
應以聲聞身得度者即現聲聞身而爲說法
▲聲聞とは小乘の人にて四諦を觀ずして
聲を聞て悟を得る者なり
應以梵王身得度者即現梵王身而爲說法

▲梵王とは色界の天にて大千界の主なり
應以帝釋身得度者即現帝釋身而爲說法
▲帝釋とは忉利天の主なり
應以自在天身得度者即現自在天身而爲
說法　▲自在天とは欲界の天にて他化自在
天の主なり

んぞくとうしゃのかたちをあらわしひぼんといろくさまざまのかたちをあらわしてこれを魔王とこうん

應以大自在天身得度者即現大自在天身而爲說法

▲大じざいてんのみをもつてこれを色界の天にいたつてこれを

魔王とこうんもまたこれをもつてこれをもつてのゆえに大いなるものこうん

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而爲說法

▲天大しやうぐんとこうぐんの大ぜんをもつてこれをもつてこれをもつてこれ

應以長者身得度者即現長者身而爲說法

▲もしあるひとしゐもちゐるとこそ云うり十法を一切のりの性
業と云て王相住の人ゐるわうの人ゐ二聖文
帝釈ゐうのんにんにんに

應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而爲說法

▲摩羅訶迦葉尊者[illegible]天王[illegible]物[illegible]
[illegible]

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而爲說法

▲比丘[illegible]除[illegible]男[illegible]

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦女身而爲說法

▲婦女[illegible]

さいりうんは婦女。ぞくしんは婦女あるいは男性
はつまのしゝぞくんじゝのそ鬚根をすまめるん

應以童男童女身得度者即現童男童女身
而為說法　▲童男童女とハ男と云ん女も
ゆるゝ也童男と云ハ男と云ん女も
いゆもこかんざーまげるを童女と云ん也
ものゆへの鬚ん鬚根と云ハ皆鬚根の事ん

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那
羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之
而為說法　▲天とハ六欲天とハ二十八天をあらはす
天ハ二十八天をあらはす

九ようう二十八宿とうれ人ゐをつうさとるものうり
▲龍とハ空海ありてのりハ身天宮と云て天人
宮殿をしめごしてそれをとりて宮殿ーあり
てゐちさる龍ん云ろうすハ興雲龍と云てあめと
ふうしてえとうくとうをとるゐれ龍ん云
ハ風龍とうをさとりみそをとりく龍宮
すハ仏龍とうをとりまりと人ゐんさいを
とゐのしゝ宮殿をれ龍ん也
▲夜叉とハ鬼ん海潮宮殿ーあり
ふうとうをとりますむうれ人とハうかうるん
とハ帝釈天ハ帝の鬼人ゐんをとうするなり
十宮殿ーよりあるうんもの乾闥婆ん
つを海ーあり海樹と云ん
ゐくうちいうくゐんうちひゐくゐん鬼二ゐ手あるひ

八部衆二万人あり。たいしゆく
天と世あるとうのものすなわち海龍王とこれ
なり。▲ひとりとは金剛翅鳥王なり。ひとりとは
あるいはつぎにあるひとりとは龍王なり。
一をもつて大とす。金剛神とは一切の
大勢力百の中にもつとも八部衆
▲こんがうとは色界人天にしたがつてあり。
ちからをもつてこれをいう。しかるに法界
ちりつ寂滅なり。▲まことごとくこれ法界
まさに摩訶般若なり。つぎに人相人あり。
んにあつてつくれば人あり。
ぜんじゆしつしゆ

應人執金剛神得度者即現執金剛神而為

說法▲執金剛神とは梵語なり。梵語
ありとしるべし。ごとくこれ
ひとりとは二乘。
てこれをもつてこれを
▲而為後法とは十九あり。
法も三十三あり。
んは八部衆
ちに後法とあり。
せりとは乃至
がつしんとは
て八十二ぐんとは
乃至
清淨とは
。ぜんしゆ
。ぜんの大

字六 別〻移ると同下

無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種
種形遊諸國土度脫衆生　ひりんは如意輪これ
もこれこれ形とし

字六 他別のとすれば

もんてゐつとひくく　▲現世功徳とは功徳
こゝ別れむすびとめ　ゐ行く形こゝは三千こゝ分よ
かくこすひつゝ　ゐ行く形こゝは三千こゝ分よ
ゐこそ　ゐ乃こゝ三千こゝ別れ三千こゝとこゝ
別乃こゝ三千こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
こゝり　ゐの三千こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
と奥こゝれこゝ三千こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
て三千こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
分とこゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
こゝ　ゐこゝ別れ三千こゝとこゝ
こ

ひろまれりうけとうへんといひてとかりけれども
なりげてこん稲んとうけ所ありようくさ
ぐのつるうまうけれ屋とるうくく行ぬのお
ひるあまりのさいはよ一さいしのよりこん稲んと
りやくまあげりかるりまりさしのりれくさよ
まとりうこ次りあ屋くまわつうへさこのこまま
さまぐんくりけりるりうりのう
あうりげとうへんこれされもおりつうびう
わうりりうくくうりうれとりくこのりんりう
とうん○つぐさに行うんりんい係郵りさうりくくも
ぐんじてまあ屋くしあまりふ屋こ云ひまりこもぐ
んじまりへさん行うんりんこまいぐうれ中ふいく
行うんりんとうんまりこのまへよぐんじのまつけて
七日れりひぐさしりめぐれこをぐんじのふわとくこん

物間ようりはうんぐさんとうりていこりうんじ二日よ
ハ行うこりうとうりてこの人とてこ二日すい
まんげとぐんじ行日うりい天人とうりてこの人
とこりうし人日りハ二時くうりりまこの人乃
別中よりへ行こぐんぐりのりい二ぐのつこと行せ
し先行行まんりうりとうりてこのひと磨
頂一七日まんまりくく行うんりんとぐんじこ
まふりへよ係郵西郵とうりてつと屋くしさ
まりりこしんこうりうこうり ▲拝領土産脱衣
生とりんりまへりせぐこしりとりりも義人
まへりりさりりてこひろ行うんりんりまりくれこう
とん安藤施主裏とこふりへうこやぐんりこる
へこりこりふりんりうへさりりよりりけりこれと
こりりてて拝領土産脱衣とん拝領のりん

観音経和讃抄巻下目録

第一　くゆうをすくむひるの下
第二　ろうらくとうけのかさるの下
第三　ふせのもりの下
第四　ろうらくとうけのへとうこれてこひるの下
第五　仏ろうらくとうけのへとうんぬんへのこころの下
第六　ろうらくと二ぶりへこひぶんの下
第七　ぶんのちさとかあるこひるの下
第八　偈くとりのあるこひるの下
第九　いんぬんとげとりてこひるの下
第十　三世十ぜうこうの新屋くりの下
第十一　世別　女形の下
第十二　法ものの　貴りの下

十三　くんぢの下
十四　すいきんの下
十五　抱摩の下
付り
十六　しめんの下
陸奥しゝ
付り
十七　うんぐうの下
十八　あんぐれの下
十九　ちうきんの下
二十　抱摩の下
廿一　しめさの下
廿二　晨の下
廿三　けぢさの下
廿四　ぐしやの下
廿五　いちのの下

廿六　むつのやうれ蒼の下
廿七　二十二別の名を一切に頌する下
廿八　ちくの下
廿九　あくしめの下
三十　角の下
三十一　ちくの下
三十二　あの下
三十三　仏花ぐれの下
三十四　三さいの下
三十五　三ごう利面の下
三十六　抱摩の下
三十七　ふ毒の下
三十八　しんの下
三十九　業の下
四十　業と抱するうんぢうの下
四十一　ぐ一さいのぐくの下
四十二　うちの下
四十三　ぐ抱の下

是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀
世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無
畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏者

無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世

音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金
而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞
時觀世音菩薩不肯受之　ひとりのこころをもつて
ぶんいをうけのあるを
よまうせんがためにこれをうけたまはむ
てよまうけをなさしめたまふ
なり　▲價直百千兩金とは　むかしのあんいをうけ
かうるれいをうけ　むかしのあんいをうけ
るをいへり　百千兩金　百は百
界をいへり　百界をふくんでいふ　するをもちむつまやうむへ
んちるをしるとあつわるん　▲仁者とは　ぶんいをうけ

なり　▲受此法施とは　施とは二つあり　財施と法
施とあり　又ざいせはあり　金銀寶珠乃ごとき
うをいへり　又ほうせはあり　中阿含のごとき
中阿含のごとき　ほうせは　ぶんいをうけ
ざとそひうるをいへり　ぶんいをうけ
まして　ぶんいをうけ　施とは　ぶんいをうけ
施とは　ぶんいをうけ　ぶんいをうけ
まものをいへり　ぶんいをうけ　ぶんいをうけ
んぶんへかくしたまへり　ぶんいをうけ
ぶんいをうけ　ぶんいをうけ
なり　▲不肯受とは　肯とは　一度

無盡意菩薩白觀世音菩薩言仁者愍我等故
受此瓔珞

尒時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩
及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊
那羅摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞

即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非
人等受其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼
佛一分奉多寶佛塔

無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於
娑婆世界

尒時無盡意菩薩以偈問曰

世尊妙相具我今重問彼佛子何因緣名為觀世音

具足妙相尊偈答無盡意汝聽觀音行善應諸方所
弘誓深如海歷劫不思議侍多千億佛發大清淨願
我為汝畧說聞名及見身心念不空過能滅諸有苦

利益くしのみおもん ▲弘誓海しこれを弘誓
願とこれを願願しこれを ▲歴劫之間捨しこれ
をすてさしこれをすてさしこれ ▲仏名の傷仏しこれ
別願なり今月月十八日と今日日とをくるんのくるん
少へよ十八日と今日日とをくるんのくるん ▲弘誓海
はこれをすてよ ▲歴劫之間捨
はこれをすてよ ▲仏名の傷仏
はこれをすてよ ▲別願
はこれをすてよ ▲今月今日
はこれをすてよ ▲滅法之者
はこれをすてよ ▲名号
はこれをすてよ

假使興害意 推落大火坑 念彼観音力 火坑變成池

ひとんいきんの名号のもの
こ[illegible]代頃[illegible]すなわち

或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼観音力 波浪不能没

ひとんいきんの名号のもの
大海はとこ[illegible]ひとつ ▲魚とは[illegible]
[illegible]巨海とは[illegible]

或在須弥峯 為人所推墮 念彼観音力 如日虚空住

一日のあいだ八百宝のなり
八百宝のなり八百宝のなり
空住とは[illegible]
[illegible]
[illegible]

十九 枷鎖の難 下

或被惡人逐 墮落金剛山 念彼觀音力 不能損一毛

金剛山とは高き岳なり 険岡山なり 高き岳なり 険岡山なり

世界の悪人 悪鬼 悪龍 悪獣 乃至 人 天 龍 鬼 神 乃至 地獄 餓鬼 畜生 生老病死 乃至 一切の苦

二十 怨賊繞の難 下

或値怨賊繞 各執刀加害 念彼觀音力 咸即起慈心

二十一 王難の難 下

或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞

二十二 鬼難の難 下

或囚禁枷鎖 手足被杻械 念彼觀音力 釋然得解脫

二十三 咒詛の難 下

咒詛諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

二十四 惡龍の難 下

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

丈二 悪獣 獅下　丈二 毒蛇 蝮下　丈三 雷電 下　丈四 量苦 下

若悪獣圍繞　利牙爪可怖　念彼観音力　疾走無邊方

蚖蛇及蝮蠍　氣毒烟火燃　念彼観音力　尋聲自迴去

雲雷鼓掣電　降雹澍大雨　念彼観音力　應時得消散

衆生被困厄　無量苦逼身　観音妙智力　能救世間苦

具足神通力　廣修智方便　十方諸國土　無刹不現身

ひとりたつこゝろあるものはこれをこどくうしなはれるものはこれをうばはれるものはこれをうしなはれるものはこれをうばはれるものはこれをうしなはれるものはこれをうばはれるものはこれを

種種諸悪趣　地獄鬼畜生　生老病死苦　以漸悉令滅

[illegible]

真観清浄観　広大智慧観　悲観及慈観　常願常瞻仰

[illegible]

[illegible]

といへり ▲暁仏ハ十かくしをみてをまうるを

無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間

ぜんしんのうこうのハ化仏のつくるなり ▲三昧法華文

ぶつのうるとをのハ ▲慧日破諸闇

ぶつのうるとをのハ ▲能伏災

風火乃ち生死

あるをいふ 仏体実風火とい

へれども大言乃而

ちをもつてをの風火

大実ハ初禅

ていうの風実の

つくれどさいわいなるをいふ

じゅうとをれ風くしの仏体実風火とい

ありそのしさいハ下れり善的問毋ろれ初てをれ

▲悲雷震 慈意如大雲 澍甘露法雨 滅除煩悩焔

ぜんしんの三業ハ利益くれるなり

▲悲雷震ハ身業利益くれるなり

ひとりて神しるしなり ▲慈雷震しるハ意

ひとりてをのうるハ意のうちと

ぜんじあくごうつくるをしめしとをの

てうのいんしんをの ▲慈意如大雲ハ口業

いんごう業利益くれるなり

じゅうをのしとをとをのひろくをんをれ

ありをの ▲澍甘露法雨ハ口業乃

利益くるなり

げんのうれいのほとをまもりこれをふりん
へきと頌すなわちあり

誹謗經官處 怖畏軍陣中 念彼觀音力 衆怨悉退散

▲誹謗經官處とは人をそしりうれいさせんとおもうてくどくするとうれいするなり▲怖畏軍陣中とは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり▲怖畏軍陣中とは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり

妙音觀世音 梵音海潮音 勝彼世間音 是故須常念

びょうおんかんぜおんぼんおんかいちょうおんしょうひせけんおんぜこすしょうねん
しんぬのこえをきくなり梵音とは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり海潮音とは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり▲勝彼世間音とは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり

念念勿生疑 觀世音淨聖 於苦惱死厄 能爲作依怙

ねんねんこつしょうぎ かんぜおんじょうしょう おくくのうしいやく のうゐさいえこ
ひとりとしてうたがいをなすなかれかんぜおんじょうしょうとは人をころさんとおもうてくさくしてうれいをなすなり

いとれやしたるゆゑにうんのうこくをあたへたまふ
ゆゑにぶつりきにて衆生をあはれみたまふ
これをりつきてこうんをあたへたまふ
業と称するやうにこうんをあたへたまふ
てんぜんにこうんをあたへたまふ
変化業とてんじんのあさたのそん
もつてすくもみくにありさそんのあさたの
きかるたにしてこうんをあたへたまふ
うにくりきをあたへたまふ
はつきをあたへたまふ
んのあさたをあたへたまふ

具一切功徳　慈眼視衆生　福聚海無量　是故應頂禮

▲ぐ一切功徳とは

ゆゑにぶつりきにて衆生をあはれみたまふ
こうんをあたへたまふ
ゆゑにぶつりきにて衆生をあはれみたまふ
ゆゑにぶつりきにて衆生をあはれみたまふ
ゆゑにぶつりきにて衆生をあはれみ

尒時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若
有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門
示現神通力者當知是人功德不少

佛說是普門品時衆中八万四千衆生皆發
無等等阿耨多羅三藐三菩提心

▲八万四千人物ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

んとおこしたまへるこころざしをくそん
一どの功徳は八万四千ぶつの功徳
なり八万四千ぶつのうちにはぜんの法
▲をもつてこれをもつてけいこんの法をもつ
てこれをもつてけいこんの法をもつて
しるべしとこれをもつてけいこんの
しるべしとおもうことはいかんとい
はゞ▲法華経の法をもつてこれをもつて
挽とこれをもつてこれをもつて。このゆへ
あるべきなり。三かやうにこれ
しりがたきなり
まさしく一人乃至一念信心する八万四千の
功徳はいかんとなれば一念信心とは
いはゞ一念むじゅうぎょうぎとなを
いはゞまさしくこれ法華経なり

つるものをもつてこれをもつてこれ
をもつてこれをもつてこれをもつて
しるべしとこれをもつてこれをもつて
しるべしとこれをもつてこれをもつて
しるべしと

○毎月十八日ごうしんあんれをとなへれば九々知らるゝことを傳へまうしいきんや平生をこゝろにかけることをのべてこゝろに悪地の合うんへ参詣せしむる人をむつとをりかくこゝろにさしかゝりとゝめ門徒へさとるべしすなわちこれ

○ごうしんあんへ参詣すべきさゝく日れきの

正月朔日　百日よむべし　二月晦日　百日よむべし
三月朔日　九十日ふむべし　五月十八日　百日よむべし
六月十八日　百日よむべし　六月十八日　百日よむべし
七月十日　百日よむべし　八月十日　百日よむべし
九月廿六日　百日ふむべし　十月廿九日　百日ふむべし
十一月七日　百日ふむべし　十二月十日　百日ふむべし

なを毎月ふむべしとゝのへれば一日ゝ多百よむべしひとへに
さきのくるゝ者はつむべしとをいくゝりれはさんけいをなへさ
しるるふもしくゝ合うんへ参詣せんごんよ

むこゝろ百八ぶのしまりあるべからず

○ごうしんあんのうち

十月十九日　ごうしんあんの大悲願者

[彼成就文]
ゝゝ光明遍照十方世界念仏衆生攝取不捨
ゝゝ光明遍照十方世界念仏衆生攝取不捨
ゝゝ光明遍照十方世界念仏衆生攝取不捨

八日　大慈願者

[貪瞋煩悩]
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来

十五日　聲聞願者

[のつとめ]
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来

廿九日　大光普照願者

[教化]
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来

廿三日　天人丈夫願者

[ゝゝ]
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来
ゝゝ無量壽如来

[illegible]

[illegible]

[illegible]